

3. 医動物研究室

1. 依頼検査

医動物とは刺咬、吸血、感染症媒介、寄生、不快など、公衆衛生上のさまざまな問題を引き起こし、人の健康に害をなす動物群を総称する用語である。一般には衛生動物のほうがなじみ深いと思われるが、この用語には原虫類や線虫類など、内部寄生虫が含まれない。医動物には原生動物から脊椎動物まで、分類学上の主要な動物門を網羅する多様な動物が含まれており、研究室では衛生動物の同定検査や生態、被害の調査、防除試験や駆除に関する相談など、関連する業務全般を行っている。

本年度の依頼検査件数は58件で、環境衛生に関するも

のが45件、食品衛生に関するものが12件、寄生虫が1件だった。検査の対象となる動物の中に直接、人体を加害するものは少なく、大半は一般の人から健康福祉センターの窓口に寄せられる不快・不安感に基づく虫の相談（環境衛生）と食品中の混入異物（食品衛生）である。事業所関係の相談は食品製造・販売や住宅建設・販売にかかわる事業者からの食品中の混入異物や虫害による住宅瑕疵の問題が多い。今年度の同定検査の内訳を検体の種別（動物）と依頼者区分により表1に示した。検体種別の項目にみられる対象動物の多様性からも、医動物の意義が複雑化している昨今の傾向を見ることができる。

表1 平成18年度の医動物同定検査内訳

依頼者区分 種別	保健所	行政機関	医療機関	事業所	一般依頼	合計
線虫類				1	1	2
腹足動物	1					1
ムカデ類	1					1
ヤスデ類	1					1
ダニ類	1				1	2
クモ類	3					3
甲殻類		1				1
昆虫類						
カイガラムシ類	1			2		3
カメムシ類	2					2
シロアリ類	1				1	2
ゴキブリ類	1					1
アブ・ハエ類	5		1	1		7
ユスリカ類	1			1		2
チョウ・ガ類	2				1	3
アリ・ハチ類	4			3		7
甲虫類	7			1	2	10
ネズミ・コウモリ類	1					1
室内塵					1	1
動・植物組織	4					4
カタラーゼ反応	3					3
その他	1					1
合計	40	1	1	9	7	58

2. 調査研究

1) 千葉県における感染症媒介カの生息実態調査

ウェストナイル熱に代表される感染症病原体を保有するカの国内侵入、発生が懸念されていることから、千葉、成田、旭市でカ類全体の発生动態の把握を目的とした定期的な採集調査と、捕獲された雌カを対象としたウイルス保有検査（ウイルス研究室が担当）を行った。

採集調査の結果からライトトラップ（千葉、成田）で

984個体、炭酸ガストラップ（千葉、旭、成田）で283個体のカ成虫が捕獲された。都市部においてはヒトスジシマカとアカイエカ、郊外住宅地ではコガタイエカとヒトスジシマカが優占種となった。主要種の活動は5月上旬（ヤマトヤブカ）から始まり11月下旬（アカイエカ）に終息した。各地で捕獲された雌カのウイルス保有検査では、ウェストナイル熱ウイルスを含むフラビウイルスグループのウイルスは検出されなかった。

2) ニホンヤマビルの生態学的な調査

千葉県ヤマビル等被害対策会議が実施するヤマビル防除実践事業の中で、生息地の住民を対象としたヤマビルの生態、被害に関する講習会（講師派遣）を担当した。本年度は7月に君津市亀山で講習会を実施した。

生息地全域の発生動向を知るために鴨川市天津、大多喜町筒森・平沢、君津市黄和田畑など7ヶ所で行った定点調査から、この地域のヤマビルの生息状況が依然として増加傾向にあることが確認された。従来、生息密度が低かった平沢地区では増加傾向が顕著で、単位面積あたり生息数は前年の6倍となった。今後、周辺地域でのヤマビルの増加と生息域の拡大、定着が懸念される。

3) インターネット利用による衛生害虫の遠隔検査の検討

業務用配布パソコンの通信機能を利用して、衛生動物

の同定をEメールで送付された画像で行う遠隔検査を行い、検査業務としての実用性を検討した。

本年度に健康福祉センターから送られた画像検体6件を解析した結果、6件ともセンター職員が撮影し、メール添付ファイルとして送られた画像だけで種または科の段階までの同定が可能だった（表2）。本年度の検体はガ、ヤスデ、クモ（2）、甲虫、ネズミで、標本がすべて完全な形のものであり、よく知られた（資料が豊富な）虫であったことも幸いした。業務としての実用性は検討に値するレベルにあると考えられるが、写真の鮮明さや同定に必要な部位の確認、添付ファイルの画像サイズなど、技術的な課題も多く、今後当事者間で検体・画像の交換を重ねて実用性を検証していくべきものと思われる。

表2 平成18年度のEメール画像による同定依頼検査

依頼機関名 (搬入日)	検体種名	種名 確認	写真 評価	検査 資料	検体 送付	種名決定 の根拠
1. I N(20060609)	ヤネホソバ幼虫	○	○	○	○	画像、検体(種)
2. S B(20060616)	ヤスデ類	△	△	×	×	画像(科)
3. K Y(20060628)	ガイイロミシタマシ	○	○	○	×	画像(種)
4. N S(20060726)	アシダカグモ	○	○	○	×	画像(種)
5. C S(20060831)	アリグモ	○	○	○	×	画像(種)
6. N S(20070305)	ハツカネズミ	○	○	×	○	画像、検体(種)

記号の読み方

種名回答欄は、画像または検体により ○=種名同定、△=科名同定、×=同定不能

写真評価欄は、画像により ○=種名同定、△=科名同定

検査資料欄は、過去の記録及び保存標本が ○=あり、×=なし

検体送付欄は、後日検体送付による確認が ○=あり、×=検体送付なし